

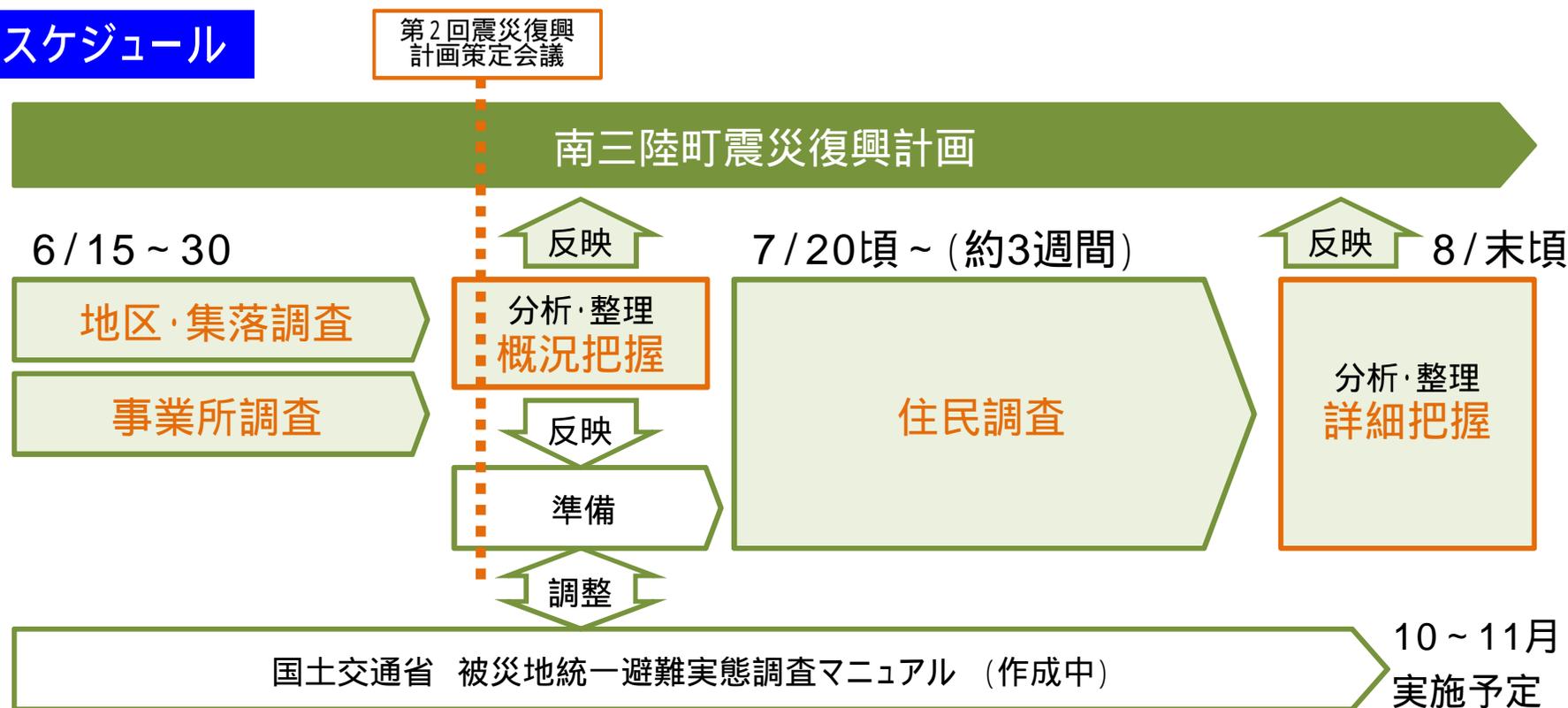
避難行動調査の概要

資料 10

目的

本調査は、地区・集落の代表者や集団で避難した事業所の代表者、並びに、避難した住民のみなさんを対象に聞き取り調査を行い、震災発生時の南三陸町における避難行動の実態を明らかにすることで、今後の防災計画、とりわけ、避難計画における避難場所や避難路の配置や整備内容、情報伝達の方法や内容などのソフト施策のあり方を検討するための基礎資料を収集することを目的とする。

スケジュール



種類別調査概要

種類	対象者	調査のポイント	調査結果の活用
地区・集落調査	<p>浸水域の地区・集落の行政区長25人 消防団分団長等26人</p> <p>町内74行政区のうち、浸水域の53行政区を対象に実施（志津川市街地などで区長、消防団分団長等が対応できなかった行政区は、隣接行政区の情報を用いた）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区・集落別に住民の主な避難場所や避難経路など大まかな避難行動の特徴を把握 ・避難後の救出・救援・救護の流れを把握 ・地区・集落内で犠牲者の多い場所や犠牲者に多く見られた行動を把握 ・日頃の地区・集落での防災訓練・教育の実施状況と効果を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区・集落の空間的な地域構造と被災状況及び避難行動の関係をパターン分析することにより、地区・集落の空間的構造に適した避難施設・経路計画を立案 ・今回の震災では、浸水、倒壊した指定避難所も多く、安全な避難所・避難経路の配置・整備を検討 ・特に、志津川市街地、歌津・伊里前、戸倉・折立では、地区・集落代表者への聞き取り調査だけでは、複雑な避難行動の実態は把握しきれないため、住民への聞き取り調査が必要 ・津波の警報や目視など、避難行動のきっかけとなる情報伝達や、避難場所への誘導、救援・救護時の情報伝達など、情報伝達方法の検討 ・避難の呼びかけ・声かけ、避難時の要援護者の介助など、地区コミュニティ、事業所、世帯での防災意識を向上するための防災訓練・教育などソフト施策を検討
事業所調査	<p>浸水域の学校、保育所、医療・福祉施設、従業員30人以上の民間事業所など23件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時に人が多くいた事業所での集団の避難行動の特徴を把握 ・日頃の事業所での防災訓練・教育の実施状況と効果を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の警報や目視など、避難行動のきっかけとなる情報伝達や、避難場所への誘導、救援・救護時の情報伝達など、情報伝達方法の検討 ・避難の呼びかけ・声かけ、避難時の要援護者の介助など、地区コミュニティ、事業所、世帯での防災意識を向上するための防災訓練・教育などソフト施策を検討
住民調査	<p>志津川市街地、歌津・伊里前、戸倉・折立の住民を中心に450人を予定</p> <p>450人設定根拠 浸水域世帯数の10%相当であり、浸水域人口の3%相当</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・属性別に地震発生後の住民の避難行動を時間の経過とともに詳細に把握 ・災害前の防災意識を把握 ・地震発生時の警報の認知 ・今後の避難経路や避難施設への要望 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の警報や目視など、避難行動のきっかけとなる情報伝達や、避難場所への誘導、救援・救護時の情報伝達など、情報伝達方法の検討 ・避難の呼びかけ・声かけ、避難時の要援護者の介助など、地区コミュニティ、事業所、世帯での防災意識を向上するための防災訓練・教育などソフト施策を検討

地区・集落調査と事業所調査の調査項目と設問

調査項目	設 問	地区・集落	事業所
地区・集落状況	名称、形態、人口・世帯、発生時人口、海の眺望、防災上の中心組織		
事業所状況	名称、住所、発生時所在者数、海の眺望		
被災状況	死者数・行方不明者数、倒壊建物軒数、船などその他の被災、浸水域の目印		
	死者数・行方不明者数、建物被害状況		
津波到達の予想	予想、理由		
避難行動(時系列)	回答者の避難行動、地区・集落の避難行動(発生直後 揺れ停止 第一波 第二波 津波安定)		
	避難時に使った有効な情報源(発生直後 揺れ停止 第一波 第二波 津波安定)		
救出・救援・救護の動き	救出・救援・救護の対象者・実施者・場所・内容		
避難場所・経路・手段	名称、住所、管理区分、避難者数、被災状況、地域防災計画での位置づけ、経路の支障、移動手段		
要援護者避難誘導状況	要援護者数、誘導・援護した人、避難場所・手段、問題点・改善点		
主要施設の避難状況	施設名称、所在者数、避難場所、避難経路、移動手段、問題点・改善点		
救出状況	取り残された人の場所、人数、救出までの時間、救出者、救出手段、問題点・改善点		
犠牲者の行動特性	犠牲者の多かった場所		
	多く見られた行動(津波の様子見、自宅・会社への戻り、判断遅れなど)		
独自の避難ルール	ルールの有無、浸水域設定の有無、避難場所、周知の重視事項・方法		
	自主防災組織の有無		
防災訓練の状況	実施頻度、参加状況、訓練時の避難場所・経路、今回の地震での効果		
防災施設・設備の有効性	有効だったもの、有効ではなかったもの、あれば良かったもの		
復興への要望	自由回答		

住民調査の調査項目と設問

調査項目	設 問
災害前の状況について	今回の大震災が発生する前の備え
	津波ハザードマップの浸水域居住の認識
	自地域での過去の津波の看板・サイン・標識の認識
	2010年チリ地震津波の際の避難の有無
地震発生時の状況について	発生直後の自身の所在場所(所在場所、建物階数、建物被害)
	同居家族の発生直後の所在場所
	地震発生時の揺れが収まってからの行動
	地震発生時に津波が来ると想定したか(想定の原因)
	今回の津波の経験(巻き込まれた、見た)
地震発生時の警報の収受について	地震発生時の停電の状況(時期)
	大津波警報の認識(認識、警報を知った情報媒体、警報内容、警報を知って思ったこと)
	役所・役場等からの避難の呼びかけを聞いたか(呼びかけを聞いて思ったこと)
避難について	避難の有無(避難しなかった理由、勤務上避難できなかった仕事と被災状況)
	避難を決めてから実際に避難するまでの所要時間
	最初に避難しようとした場所
	最初に避難しようとした場所に行ったか(行けなかった理由)
	地震直後から日没までの移動行動(施設名称・住所・種類、移動手段・目的・きっかけ) 地図にも記載
今後の避難経路、避難施設について	避難時の道路の渋滞や浸水、損傷などの状況 地図にも記載
	避難所の立地や設備面で問題に感じたこと
	今後の居住地域に求める避難路設定の考え方
	今後の居住地域に求める避難所・避難施設のあり方
	自由意見
	属性(性別、年齢、職業、住まい・家族の被災状況)

避難行動調査の経過報告

調査の進捗と今後の予定

- ・志津川市街地、歌津・伊里前、戸倉・折立を除く集落については、概ねの避難行動の実態を把握
- ・今後、集落の空間的構造やコミュニティの特徴と被災状況、避難行動の関係について分析
- ・志津川市街地、歌津・伊里前、戸倉・折立については、地区・集落調査結果を踏まえて、住民調査を実施した上で分析・整理

地区・集落調査の結果速報

定量的分析は現在実施中のため、以下では定性的な傾向にて報告

< 避難場所 >

- ・被災した指定避難場所が多く、指定避難場所で亡くなられた方、次の避難場所に避難した方が多く見られる
- ・被災しなかった学校や地区センターなどの避難場所のほか、高台や民家に分散して避難した方も多い

< 避難路・手段 >

- ・国道45号、398号の一部で車を用いた避難による混雑、電柱の倒壊による混雑があった(今後確認)
- ・徒歩による避難が多かったようだが、車や家財の被災を逃れるために車での避難もあった(今後確認)

< 犠牲者の特徴 >

- ・津波の到達を予想しなかった内陸部での犠牲者が多く、内陸部では津波が間近に迫るまで気づかなかった(今後確認)
- ・津波は予想したが家や会社に戻って亡くなられた方もいる(今後確認)